



福井の2自治会解散

県内初 高齢化、負担重く

「東侯町」「乾徳10」

福井県内初の自治会解散が、東侯町と乾徳10地区で行われる。高齢化が進み、財政負担が重くなるなど、合併を機に解散する。東侯町は、町民の約7割が高齢者で、町民の約3割が65歳以上。乾徳10地区は、町民の約8割が高齢者で、町民の約4割が65歳以上。両地区とも、町民の約3割が65歳以上で、町民の約4割が65歳以上。両地区とも、町民の約3割が65歳以上で、町民の約4割が65歳以上。

役職担えず 苦境の選択

若者地元離れて悪循環

内山秀樹(仁愛女短大教授)

福井県内初の自治会解散が、東侯町と乾徳10地区で行われる。高齢化が進み、財政負担が重くなるなど、合併を機に解散する。東侯町は、町民の約7割が高齢者で、町民の約3割が65歳以上。乾徳10地区は、町民の約8割が高齢者で、町民の約4割が65歳以上。両地区とも、町民の約3割が65歳以上で、町民の約4割が65歳以上。

はたなか もえ 中 萌さん(藤島中1年)



古里支える気持ち大切

県内の二つの自治会が解散した。二つの自治会とも少数の高齢世帯で構成しており、地区の自治会連合会

などから割り振られる役職を務める負担が大きくなったことが解散の理由とみられる。私は、この解散の原因は、社会で問題になっていく少子高齢化だと思う。若い人がいたとしても、都会に行く人も多く、だんだんと人

が減っていつてしまっている。今回解散した二つの自治会のうち一つは、福井市中心部に近いところだ。もう一つは、市から隣接自治会との合併を勧められたが、迷惑をかけたくないという理由から、合併しなかったそうだ。

私は、このような問題を解決するために一番大切なのは、若い人が生まれ育った場所を支えていくことだと思つ。今まで育ててくれた場所に恩返しするつもりで、その場所で仕事につき、家族を持つことが大切だ。そうすれば今回のような出来事も防げるはずだ。